

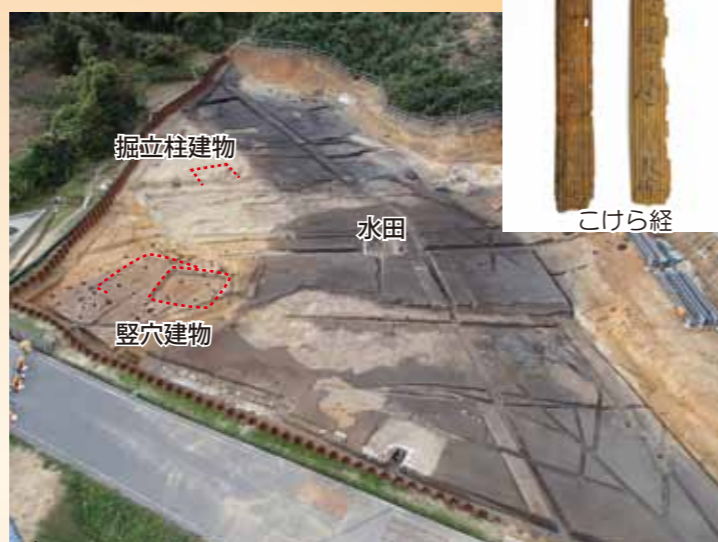
# 高住宮ノ谷遺跡 たかすみみやのたにいせき & 高住牛輪谷遺跡 たかすみうしわだにいせき



## 古墳時代～古代の集落跡！高住宮ノ谷遺跡

高住宮ノ谷遺跡では、北側丘陵部で掘立柱建物が3棟以上、南側丘陵部で竪穴建物2棟、掘立柱建物1棟など、古墳時代から古代にかけての集落を確認しました。また、中央の谷部分は、古代から現代まで連続と水田として利用されていたようです。

遺跡からは、古墳時代後期（約1,500年前）～中世（約600年前）を中心とする時期の土器や陶磁器、木製品のほか、縄文～弥生時代の石器、土器も見つかりました。中でも中世のこけら経は、県内で初の出土となる珍しい発見です。



高住宮ノ谷遺跡（3区）全景

## 古墳時代の大造成！ 高住牛輪谷遺跡

高住牛輪谷遺跡では、古墳時代の初めごろ（約1,700年前）と古墳時代の終わりごろ（約1,400年前）に竪穴建物や掘立柱建物などの建物のほか、大規模な造成工事の跡や柱穴などの建物跡が見つかり、集落が営まれていたことがわかりました。

また、コンテナ100箱にも及ぶ、たくさんの遺物が出土しました。中には銅製の鈴や陶棺の破片など、珍しいものも含まれていました。



高住牛輪谷遺跡（2区）全景



銅 鈴

長い冬も終わり、まもなく桜咲く春を迎えます。  
今月号では今年度の調査成果を振り返りました。来年度も「鳥取西道路の遺跡を掘る！」で最新の調査成果をお知らせします。お楽しみに！！  
※鳥取県立博物館の「歴史の窓」コーナーで、3月24日～5月10日の会期で26年度の調査成果の一部を展示します。是非ご覧ください。  
（ただし、3月30日、4月6・13・20日は休館日です）

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

# 鳥取西道路の遺跡を掘る！

第71号 2015年3月23日

かつては身近にあったのに、時代の移り変わりのために見かけなくなったものが数多くあります。

今回は、平成26年度の発掘調査で見つかった「今では見かけなくなったもの」の1つをご紹介します。

ちなみに、最近では公衆電話もあまり見かけなくなりましたね。



## なつかしの井戸のはなし

現在あまり見かけなくなったものの1つに井戸があります。

今は各家庭に上水道が引かれているため、蛇口をひねれば水が出てきますが、かつては井戸から汲み上げた水を炊事や洗濯などに使っていたというご家庭もあるのではないのでしょうか。

それでは、日本で井戸が造られ始めたのはいつのことだったのでしょうか。地面を掘り下げて水がしみ出て溜まるのを待つ、いわゆる「素掘りの井戸」はずいぶん古くからあったのでしょうか、井戸枠などの構造を備えたものが造られ始めるのは弥生時代になってからだと考えられています。

そうした特徴的な井戸枠を持つ井戸が、今年度の調査で2つ見つかりましたのでご紹介します。

1つは松原田中遺跡から見つかった古墳時代前期（約1,700年前）頃のもので、この井戸は地面に掘った穴の中に径50センチ余りの丸太の周囲を幅2～4センチ程度残し、中心部をくり抜いて筒状にしたものを井戸枠として埋めていました。調査区の端から見つかったため、部分的にしか調査できていませんが、残りの部分を平成27年度に調査しますのでさらに詳しいことが分かると思います。



松原田中遺跡で見つかった井戸



下坂本清合遺跡で見つかった井戸

もう1つは、下坂本清合遺跡で見つかった鎌倉時代（約800年前）の井戸です。その井戸枠は、四本の丸い柱を四角形の四隅に打ち込み、柱の間に縦板を何枚も並べ、その内側に設置された横方向の棧で縦板が内側に倒れないように固定する構造でした。このような構造の井戸は、古代から中世にかけて多く造られました。新しい時代になり、松原田中遺跡の井戸よりも複雑な構造になっていることが分かります。

時代と共にその構造を変化させながら造られ、そして利用され続けた井戸。

皆さんの身近に井戸はありますか？

(公財) 鳥取県教育文化財団  
調査室

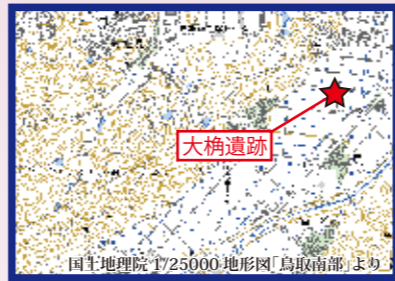
〒680-1133  
鳥取市源太12番地

TEL : 0857-51-7553  
FAX : 0857-51-7550

メールアドレス：  
tottori-kyobun@kyobun.  
sakuratan.com

# 大桷遺跡

だいかくいせき



## フレイバック!! 大桷遺跡 2014(・o・) /

大桷遺跡では、弥生時代から古代にかけての集落跡が見つかりました。とくに、平安時代の掘立柱建物群からは役人がつけていた銅製の帯飾りや、当時の高級な食器である緑釉陶器などが出土したことから、有力者の居宅があったと思われます。また、すぐ隣を流れる河川からはたくさんの木製品や土器が出土しました。なかでも、人の顔や手足を木の板に表現した人形と呼ばれるマツリの道具や、墨で文字を書いた土器（墨書土器）が多数出土したことは目を引きまます!! 建物群のそばにある水辺では、長期間にわたって何度もおまつりが執り行われていたことでしょう。

来年度は、今年度よりも範囲を広げて調査が行われます。これからも成果をドシドシお伝えしていきますので、大桷遺跡の新たな発見にご期待ください(@^o^@)!!



掘立柱建物群

河川

平安時代の遺構面



大型人形



銅製帯飾り



「佐藤」墨書土器

# 常松大谷遺跡 & 常松菅田遺跡

つねまつおおだにいせき つねまつすがだにいせき



## 常松地区の遺跡～総集編～

常松大谷遺跡では、弥生時代後期～古墳時代前期(約 1,900～1,700 年前)の田んぼを検出しました。田んぼを3回作り変えているなど、当時の谷における耕作の様子を知ることができました。また調査区北東の山際に、古墳時代後期(約 1,500 年前)の堅穴建物があり、近くからカマドや土器などの遺物がまとまって出土したことが目を引きまます。



古墳時代前期の田んぼの跡



堅穴建物と遺物

常松菅田遺跡では、弥生時代中期から中世までの遺構を調査しました。奈良～平安時代(約 1,300～1,200 年前)の川から、数多くのマツリの道具(人形・馬形・刀形・斎串など)が出土し、その中でも、人形が 36 点、馬形が 95 点と馬形は人形の倍以上も出土しました。当遺跡の近くには、馬に関連する施設があったのかもしれない。



奈良～平安時代の川



川から出土したマツリの道具

# 松原田中遺跡

まつばらたなかいせき

調査風景 (平成26年度4月)



## ～今年度の調査を振り返って～

今年度の松原田中遺跡は、2区と4-1区の2カ所に調査区を設定して4月から発掘作業を始め、近世の耕作溝、中世の土坑、弥生時代のガラス勾玉等、多くの発見がありました。調査では、遺跡を記録するために485枚の図を作成し、3,365カットの写真を撮影しました。7月には、現地説明会を行い、悪天候のなか多くの方に参加していただきました。その後11月まで調査を行いました。2区では、掘立柱建物跡や大小の穴などがたくさん見つかり、総数は1,000基近くありました(^\_^)。また、4-1区では、見つかった川の跡から大足など大量の木製品や土器が出土しました。4月から、新たに調査区を設定して、また調査が始まります。今度は何が見つかるのか、ぜひ楽しみにして下さい。



2区出土 ガラス勾玉



2区 掘立柱建物群



4-1区 川跡出土遺物

# 下坂本清合遺跡

しもさかもとせいごういせき



## タダモノではない感じ…

今年度の調査では、平安時代終わりごろから鎌倉時代の、溝で区画された建物跡(1-1区)や、大型の掘立柱建物跡(3-1区)などの周辺から、50点以上に及ぶ漆器碗をはじめ、鍋や下駄などたくさんの生活道具が見つかりました。

漆器碗のなかには、金色に塗られたように見えるものがありました(写真1:今後分析予定)。また少し古い時代(奈良～平安時代)のものですが、大変珍しい銅印(写真3)も3-1区から見つかっており、なにかタダモノではない人物がこの地に住んでいたような雰囲気が漂っています。

今年度の調査結果については、現在詳しく検討を進めているところです。またなにか分かったらお知らせしていきたいと思ひます。ご期待ください!!



写真1 金色に塗られた? 漆器碗



写真3 銅印



写真2 赤漆で文様の描かれた漆器碗